

ナノ構造触媒研究会

1. 研究会の目的

本研究会は、オングストロームからナノスケールで設計・制御された「ナノ粒子」の調製・キャラクタリゼーション・機能化に関する総合的な理解を、産官学間の意見や情報の交換・討論を通して深め、成果を広く発信することを目的として、平成 14 年に「ナノ粒子研究会」として発足した。本研究会では、触媒討論会へのセッション参加と独自の研究発表会・講演会開催を中心に活動してきた。この間、特異な構造とそれに起因する反応活性・選択性を有する様々な「ナノ触媒」が多数報告され、触媒化学の横断的な分野に発展してきた。そこで平成 21 年度からは「活性点構造と触媒機能の相関」の検討を更に推し進め、「機能発現のための構造設計が可能な研究」へと展開する意図をこめて、研究会の名称を「ナノ構造触媒研究会」と改め活動を行っている。

2. 研究会活動の概略

令和 6 年度は、例年通り触媒討論会にセッション参加し、講演会も開催した。

第 134 回触媒討論会、令和 6 年 9 月 18-20 日

名古屋大学で行われた第 134 回触媒討論会にセッション参加した。18 件の一般発表があり、15 件の口頭発表（そのうち 14 件が A1 講演、1 件が A2 講演）と 3 件のポスター発表を通じて最新のナノ構造触媒に関する研究成果が発表され、活発な討論を行うことができた。依頼講演として、鎌田慶吾先生（東京工業大）に「結晶性複合酸化物ナノ粒子の構造制御と触媒反応開発」の題目で、原賢二先生（東京工科大）に「有機分子の表面吸着現象を活用した触媒開発」の題目で、それぞれご講演いただいた。いずれも不均一系触媒のナノ構造制御とナノ構造体の触媒作用にかかわる興味深い発表であり、それぞれの講演後に活発な討論を行うことができた。

3. 世話人代表

寺村 謙太郎（京都大学大学院 工学研究科 分子工学専攻）

〒615-8510 京都府京都市西京区京都大学桂

Tel:073-383-2559, teramura.kentaro.7r@kyoto-u.ac.jp